

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	教育学部
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 教育学部設置認可申請において示した教育学部の理念・目的の学生及び教職員への周知を徹底する。	→「学部入学式、チャペル、各種実習のガイダンス、就職セミナーなどにおける学部の理念・目的の周知徹底の頻度」	B	B	B	B	
2. 学部の理念・目的について、その周知方法の適切性を評価分析する。	→「学部長室委員会及び学部広報委員会を中心にして、周知方法の改善策の検討頻度と進捗状況」	C	C	C	C	
3. 学部完成年度以降の将来ビジョン策定において、学部の理念・目的の再検討を行い、新たな設定を行う。	→「学部の将来ビジョン委員会における2013年度以降の学部再編計画および理念・目的の検討状況」	A	A	A	C	

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	学部の理念・目的については入学式・チャペル・実習ガイダンスにおいて周知徹底をはかった。
目標2	大学設置基準の改正に基づき、ホームページ等での公表を行ってきた。2013年度5月をめぐりに、ホームページのリニューアルについて学部広報委員会を中心となって進めている。
目標3	2011年度に策定した将来ビジョンに基づいて、新教育学科の設置構想をまとめ、文部科学省に設置届出を4月に行った。
備考	